

収入の部 (昭和54年9月24日現在)

OB会費(郵便振替分) (¥2,000 - ¥50手数料) × 45人	¥8,775.
OB会費(現金分) ¥2,000 × 11人	¥22,000.
	¥109,750.

支出の部 (昭和54年10月5日現在)

OB会発足準備事務費	¥10,910.
通信費	¥18,920.
	¥29,830.
差引残高	¥79,920.

以上報告致します。 昭和54年10月10日 OB会計 野崎正和

サンパチOB会

日本ボーイスカウト京都第38団OB会機関誌

OB会事務局 昭和54年12月15日 創刊号

発足の喜びと期待

小川玄諦

団が生れて、まだ間がないといつてもいいほど38団は若い団である。にもかかわらず、ここにOB会の発足が力強く始められたことは今日までのつたない歩みであったかも知れないが、いや、つたない歩みであったにもかかわらず、OB会が発足したということは、まことに、よろこばしく、また感激で一杯である。「OB会」そのものが、同窓会と同一性のものではなく、あくまでも、スカウティングという道を歩むもの上に出来たからである。また単なる後援団体でもないと思うからである。

38団といい、4団といい、共にスカウティングを歩む上に於て「純粹」?といつておかしいかも知れないが、そうした意味よりして、「スカウティング」そのものを忠実に実践して来た団であると思うのである。

「道に聞く」という言葉がある。特に今でもそうだと思うけれども、戦前のスカウターはよく聞かされた言葉である。道に火を焚くとも教えられたものである。しかし「道に聞く」といっても、本当はわからないはずである。先輩の諸氏より、その人、その人の体験とか苦労話をよく聞かされましたが、実際には、その人が苦労を通して見出された道理を聞かないのなら、道はわからない。

スカウティングは実践という、その根底に道を

歩む。道に聞くという言葉があるのも、その実践を通して聞くことがあるが故に、「ちかい」の冒頭にあるように「仏と国とに」との言葉が出てくる。私という自分の問題を抜きにして受け止めているは、わからないだろうし、道に聞くといつても、それを実践した道から生れ、また証明している人から聞くことであろうと思う。その時、道は自ら自分の内に見出されてくるのである。

道があって、道理があっても、人が居なければ、団といつてもそれは組織であって、本当の団とはいえないのではないか。団を考える場合、スカウトが生れているか、いないか、真のスカウト、道を求める事(スカウティング)をするか、しないかが問題で、つまり、団が団といえるには、その実践者が居るか、居ないか、にある。これがスカウトの原則、原理であろうと思うのである。

健康な常識とか、知性とか、いわれるが、そのために組織や制度が生れてくるのであって、それもいうまでもなく1対1の関係の上にあるものでなければならない。そこには、自ら人が求められるであろう。精しくは省略するが、OBそのものは、その人、その人によって異っていたであろうか、道を歩み、共に1つの鍋を共にした仲間であり、実践者である。その意味からして、よき先輩として後に続くものを導き下さる、真のスカウトのOBとして、よなき發展と、よき後援者、指導者として、ともどもに道を歩み下さることを念願して御挨拶を致したい。

* * * * *

O B 会 発 足

福 井 和 雄

ボーイスカウト京都第38団OB会は9月24日、

長休寺で設立総会を開き、正式に発足した。

この日、懐かしの長休寺に集まつたのは、“サンバチ”の生みの親である小川玄諦先生をはじめ、少・青年期をスカウトとして過ごした人たち、リーダーを務めた人たち、そしてスカウトを熱かくバックアップしてきた人たち、合わせて38人。

総会の議事は、OB会設立の呼びかけ人、中川正博君の経過報告に始まり、別掲のように新役員を選出、会則を決定、“毎年1回秋の彼岸頃に定期総会を開き旧交を温めあう”ことを確認、小川先生から励ましのことばをいただいて終わった。続いて、呼びかけ人が準備した200枚余りのスライドを鑑賞、さらに席を出雲路松ノ下町の中華料理店「鳳舞」に移して、懇談を重ねた。このあとさらに同世代ごとに分かれ、杯を重ねたグループもあたようである。

※

サンバチOB会誕生のきっかけは、私たちのふるすである38団がことし創立20周年を迎えたことから、友団である4団、19団などにはすでにOB会があり、メンバー同志の変わぬ交流を確認するとともに現役スカウトに対して精神的なバックアップを行っており、38団の成人式を期に、サンバチの歩みをより一層確実なものにするためOB会を作ろうと話がまとまり、京都に住むOBスカウトを中心に呼びかけを始めた。

これまで何らかの形でサンバチの活動に加わっ

た人（カブスカウトは除く）は約150人を数える。これらの人達に対して参加を呼びかける案内状を発送、大方の人たちから好意あふれる返事をいただいて世話人たちは勇気づけられ、発足にこぎつけた。

※

当日、出席した人たちがなつかしく、そしてうれしく思ったのは、小川先生が毎年のように撮影を続けてこられたスライドの上映。今ではボーイ隊、カブ隊などあわせて数千コマに達する膨大な資料となっているが、このうち200枚を精選。年代別に編集して映写した。

発足後初めての和田長期キャンプ、2年後のアジア・ジャンボリー。これらはまだ白黒スライドであり、時代の移り変わりをはっきり感じさせる。「あれ、ぼくが写っている」「なつかしいなあ」、スクリーンに見る一人一人に思い出が横切ったようだ。

東京に住む則内慶彦、水野正己君もこの日のためにかけつけてくれた。「元気か」「お久しぶり」、一たびことばを交わせば、十数年来の仲間であり、すべてが通じ合った。

ただ残念だったのは、この席に水野孝君の姿が見られなかったこと。サンバチと共に歩み、多くの後輩から親われた彼を失ったことは、順調に成長を続けたサンバチにとって唯一の心残りであろう。

※

ともあれサンバチOB会は発足した。第一世代はすでに何人の子どもを持ち、仕事に忙しい年代である。第二世代も就職から結婚に至る、人生の春を迎えている。ふるすサンバチのこと

はいつも心に留めているとしても、正直なところスカウティングにまで手が及ばないかも知れない。けれども心は永遠にスカウトである。年

1回の総会と会報などを通じて、お互いの交流と理解を深めていきたいと思う。

* * * * *

京都 38団 OB 会 役 員 (昭和54年9月24日選出)

名誉会長	小 川 玄 諦	事務局長	中 川 正 博
会 長	宮 西 敬 朋	事務局員	大 蔵 俊 一
副 会 長	福 井 和 雄	事務局員	大 嶋 正 徳
会 計	野 崎 正 和		
監 事	松 尾 佳 則		

事務局 603 京都市北区紫野西藤ノ森町3 中川方 TEL 451-1936

OB会機関誌の創刊

事務局長 中 川 正 博

このたび、OB会機関誌の創刊に当り、会員の皆様方の御協力、御指導をいただけますようお願いいたします。

38団発団以来20年、OBの方々の御意見、御要望、近況それに団や隊の活動などをお知らせする機会がないため、お互いが疎遠になっていたと考え、OB会発足により、機関誌を年2~3回発行する事になり、ここに創刊号をお送りするはこびとなりました。

これからは、皆様方と連絡を密に親睦をはかり、血の通ったものにしたいと思いますので、皆様方が進んで、OB会事務局に原稿を出していただきたいと存じます。

一応、“サンバチOB会”と名前をつけました

が、何かピッタリする名前を捜しています。これまた、事務局に出していただきたいと存じます。

OB会名簿がようやく出来上りましたので、同封いたしました。誤字や脱字、訂正等ございましたら至急ご連絡下さい。

団の現況を知っていただければと、団報“陽峰”を同封いたしましたのでご覧下さい。この中で、長休寺の本堂の修復について記されておりますが、現在見違えるように立派に出来上りました。つきましては、OB会もお世話になった長休寺に何らかの形でお役に立ちたいと思いますが、いかがでしょうか。団報にあります通り我々も一口千円の奉納金を考えてはどうでしょうか。事務局が窓口になりますので、御希望の方は御一報下さい。

なお、38団委員会にOB会担当委員として、服部圭佐、末吉央伯の両氏を派遣し、現役とのパイプ役になっていただくことになりました。

* * * * *